

世田谷区長挨拶

世田谷区長 保坂 展人



皆さん、こんにちは。

世田谷区長の保坂展人です。

せたがや福社區民学会第13回大会の開催にあたりまして世田谷区を代表しまして、一言ご挨拶いたします。

せたがや福社區民学会は、平成21年12月に設立され、区内の昭和女子大学、日本大学文理学部、駒澤大学、東京都市大学、日本体育大学、東京医療保健大学、東京農業大学、日本女子体育大学の8大学に参加いただいているところでございます。

世田谷区の福祉の向上を目指し、大学、福祉事業所、区民、行政関係者が一堂に会し、日頃の実践活動や研究を発表し交換するこの学会は、全国的にも大変ユニークな学会として発展してきており、世田谷区の福祉の取り組みに、スポットが当てられていると実感しております。また、今年度から学会の理事に学生2名が加わったとお聞きし、学会のさらなる発展・リフレッシュに寄与されることと大いに期待しています。

これまで12回の大会が開催され、発表された613の事例は、せたがや福社區民学会のホームページに掲載され、全世界に発信されています。区民福祉の向上を目指して、様々な立場から、日頃の研究や実践活動を発表し、交流が行われています。是非、せたがや福社區民学会のホームページをご覧ください。

今回は昨年度に引き続きまして、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、インターネットを使いましたWeb開催となり、大学で皆さんと集い直接交流することはできませんが、49の発表があり、意見交換もWebで実施すると

聞いています。そして、今回は新たに Zoom で、学生理事・実行委員を中心に「希望をもって暮らしつづけられるまちとは」というテーマをもとにワークショップが行われ、相互の交流、認識がさらに深まり、積み上がっていくことと期待をいたします。これもひとえに、各大学の関係者の皆様、長谷川 幹学会会長をはじめ、学会の理事の皆様、会員の皆様のお力添えの賜物と感謝を申し上げます。

少子高齢化社会が進展し、生産年齢人口が減少する中で、全国的に福祉人材が不足していることが大きな課題となっております。世田谷区も同じく、コロナ禍でさらに厳しい状況となっております。福祉の仕事は、専門知識や技術、経験にもとづいて、一人ひとりの人生に寄り添い、優しさと人間の尊厳を支える極めて重要な仕事です。区民学会の発表を通して、福祉の仕事の素晴らしさを発信していくことができればと思います。

さて、世田谷区では28あるまちづくりセンターに福祉の相談窓口を設けて、区民の皆さんの福祉に関わる相談をワンストップでお受けするようになり、既に5年になります。また、福祉の相談窓口では、まちづくりセンター、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンターの三者が連携し一丸となって、地域の課題を地域で解決していく、地域の福祉力向上の取り組みが行われています。

また、令和2年10月「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」が施行され、令和3年11月に希望条例1周年の記念イベントが開催されました。イベントでは認知症当事者の皆さんが、記念講演ならびにコーディネーター・パネリストをつとめて、認知症当事者の計4人のシンポジウムが行われました。認知症の人を含むすべての区民の希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまちを目指しながら、認知症のご本人たちの参画をもとにして、世田谷の福祉のあり方について話し合われて、とてもいい会となりました。

コロナ禍にあっても福祉を一日も止めることはできません。

皆様、大変な、ご苦労が続いているこの2年間だったと思います。事例発表に取り組まれた皆様、事例報告集に広告を寄せていただいた皆様、そして、大会を運営されるすべての皆様に区長として、心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

第13回大会もWebでの開催となりましたが、皆様からご意見をいただき、参加される皆様のお力添えで、大きく盛り上げていきたいと思ひます。

本日は皆様、お集まりいただき、ありがとうございました。